



出雲大神寫真帖

269

420

特52
120

出雲 雲 寫 眞 帖
大 社

目 次

鳥 居

本社に賽する第一の鳥居にして高さ三丈八尺八寸、柱は舊立、表を繞つて生ぜしが今は二三株を存するにすぎず其最も高きもの千餘丈、幹圍二丈數尺之を總稱して金輪の松といふ

橋

素鷲川に架せる唐銅鑿寶珠付の欄干橋を云ひ大鳥居よりだら／＼坂を降り賽路の松原にさし掛るところにあり

● 賽路及中之鳥居

大鳥居より本社に賽するの道路なり老松古杉路を挟んで職え翠嵐嶺々として自ら太古の趣あり
被橋を渡り數歩の所により高さ二丈七尺木製なりそれより老松一路路盡きて正門に出づ松原の右方平田の中に伎那築森あり左に千本松あり

● 銅 鳥 居

正門の入口に聳え碧銅若辭古澤掬すべし高さ一丈九尺、圍六尺、寛文六年防長の太守毛利綱廣の寄進する所

● 拜 殿

出組進入茂屋妻破風向支關唐破風造桁行十間、梁行十間、梁行七間、地面五百坪、軒頭に唐銅の虚鈴を掲ぐ梁の拳先牡丹の透彫唐獅子象首等を刻み柱は總て楓の圓素木を川ふ欄間總て巧緻なる花卉鳥獸を彫れり

明治
45. 6. 26
丙 亥

●本 宮

上古の宮居は三十二丈の制なりしが垂仁帝の時十六丈の制とし齊明帝の時八丈を正殿式とす現今の宮殿は即ち此式による
樓門は三手先遣入茂屋妻破風にして高さ三丈餘八つ足門の内在り

●脊 面

素戔神社の處より望める本宮の背面にして社上の千木風切穴頗る大きく傘を開いて其穴中に入る可しと云ふ

●大 砲

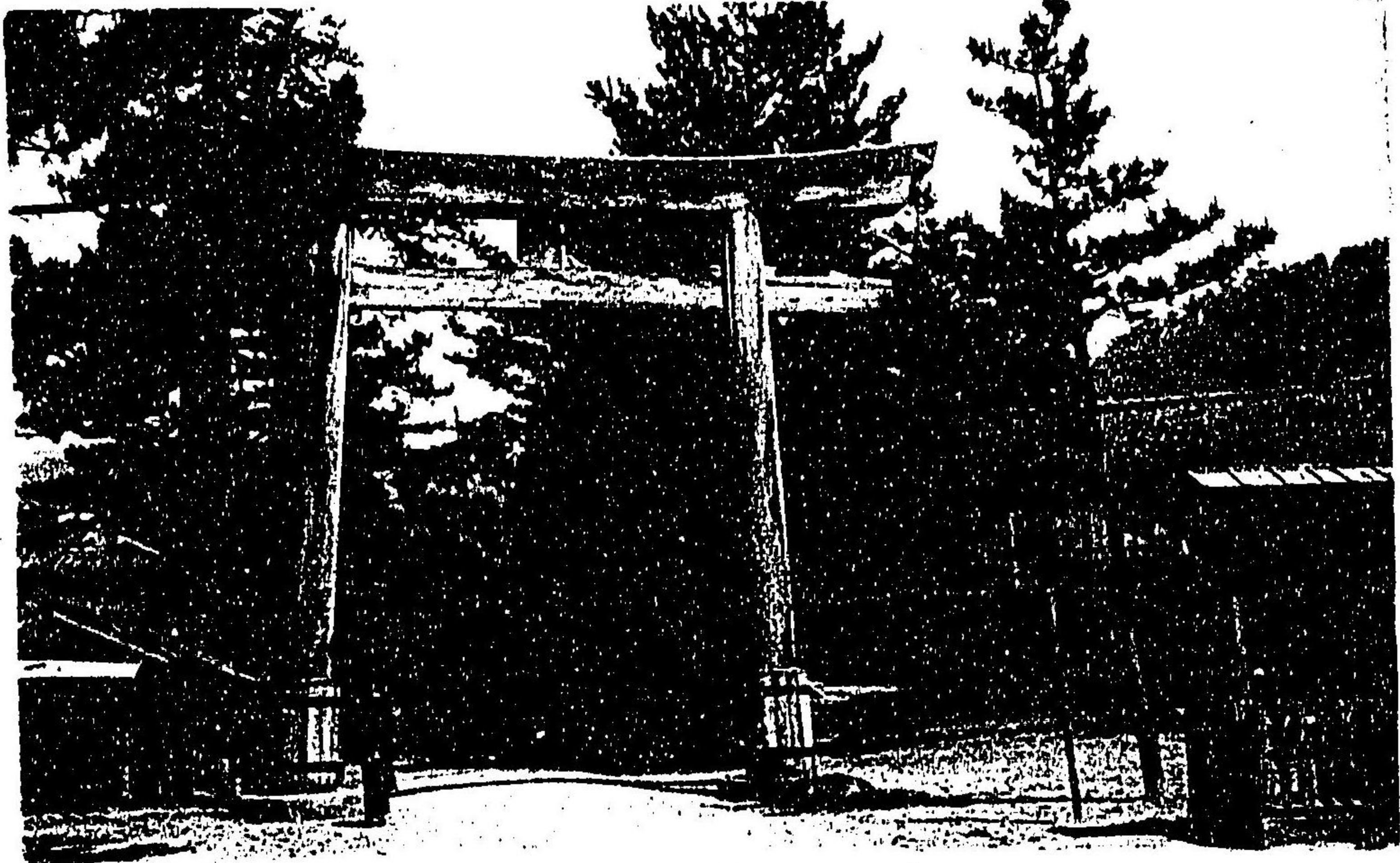
此砲は十五瓏米加農砲にして明治卅七八年戦役中南山戦利品にして我が軍占領當時未だ据付けられずして南麓兵舎の附近にありしものなり明治四十年三月陸軍省より奉納ありたり

●大 社 教 本 院

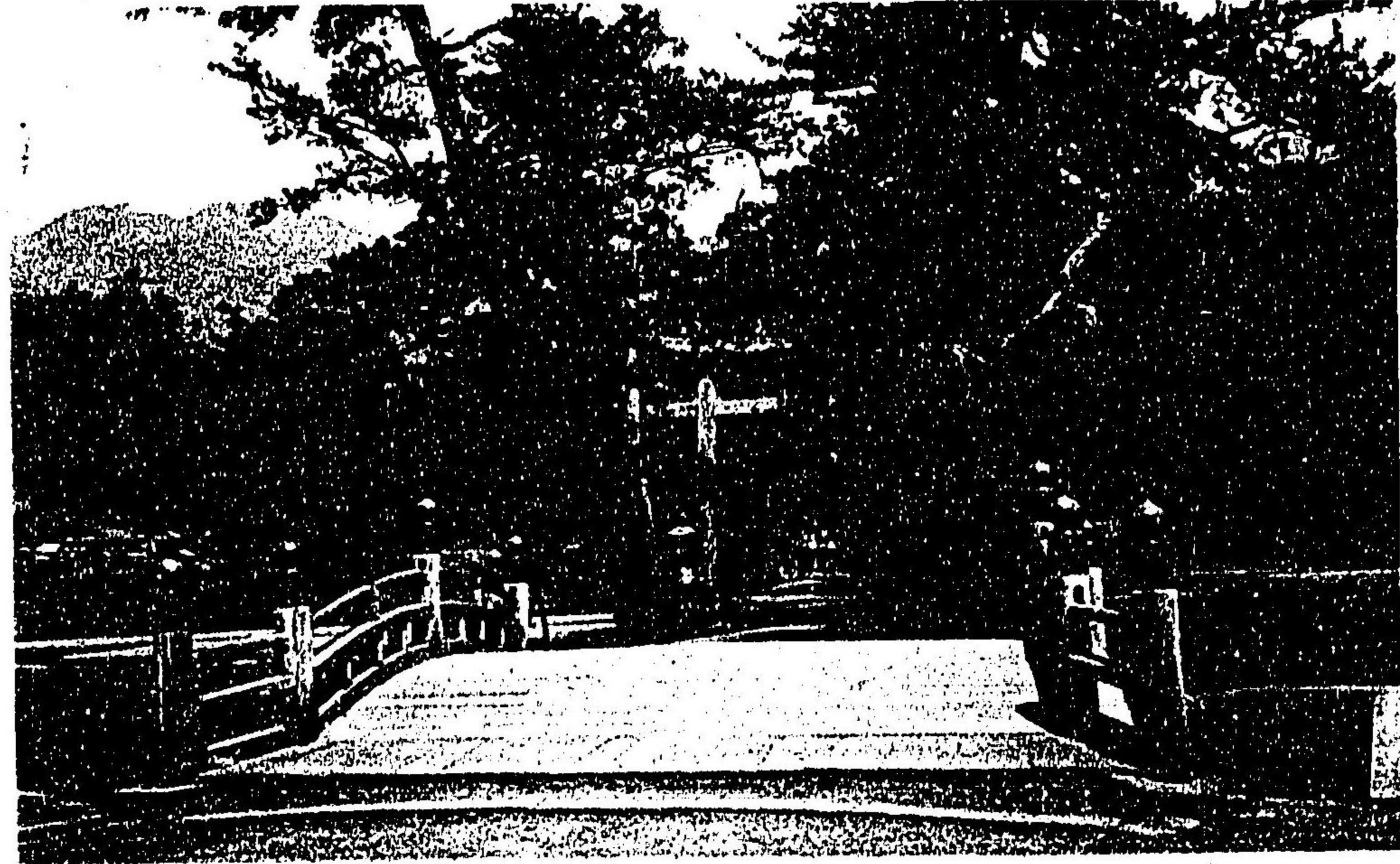
本祠は大社教の主神大國主神の纏ります所正三位千宗尊福男の創設にかゝる男爵は天穗日命の後裔八十代の出雲國造なり明治六年出雲大社大宮司兼大教正たりし時相計りて本院を建て後十四年今の地に轉す

●笹 子 島

笹子島は稻佐小濱より約五丁を隔て、海中にあり之を俗に出雲二見といふ
たゞたのため八雲立つてふ出雲なる
きつきの宮の神のめぐみを
平朝臣好彦



大 鳥 居



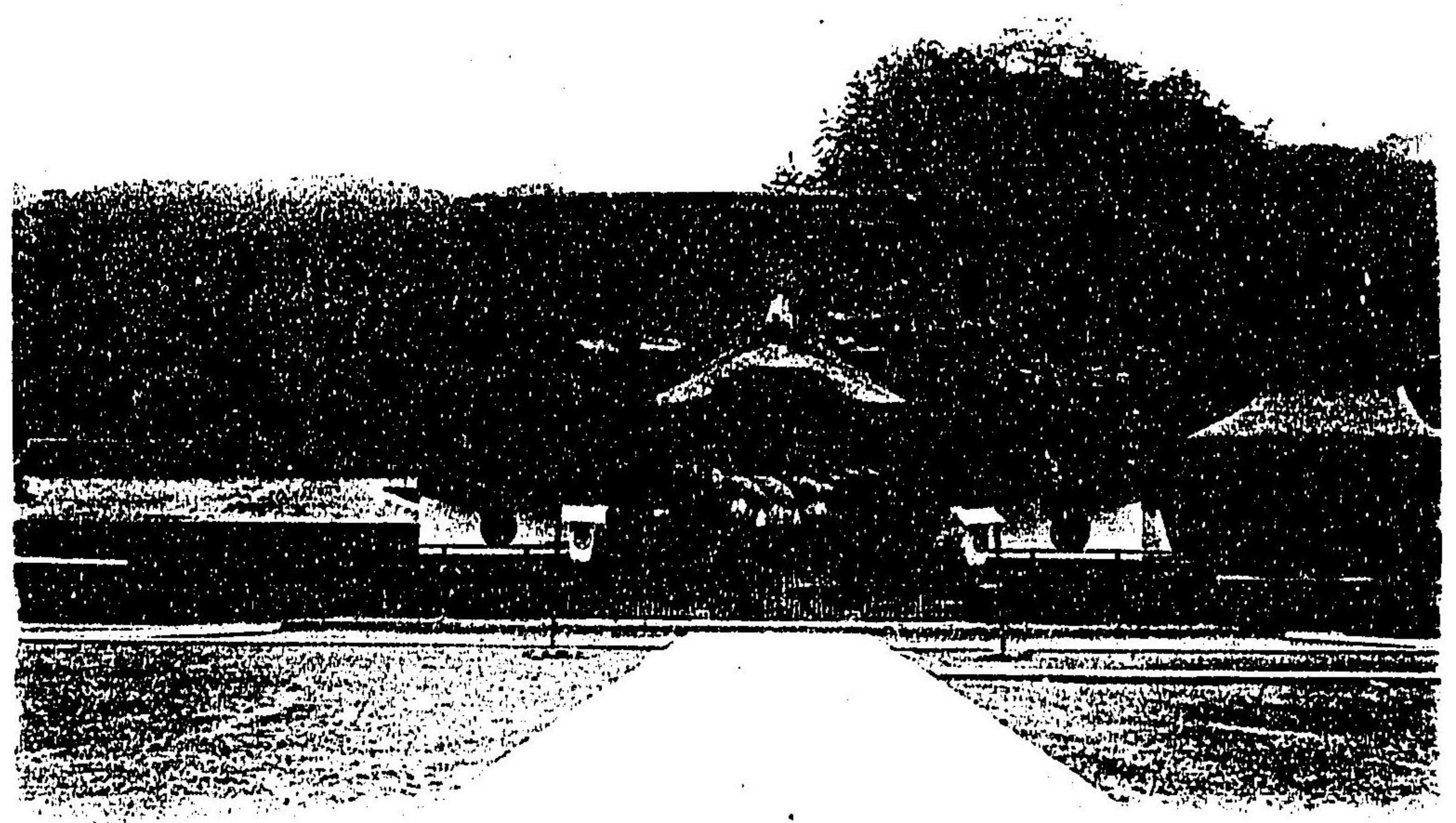
橋 袂



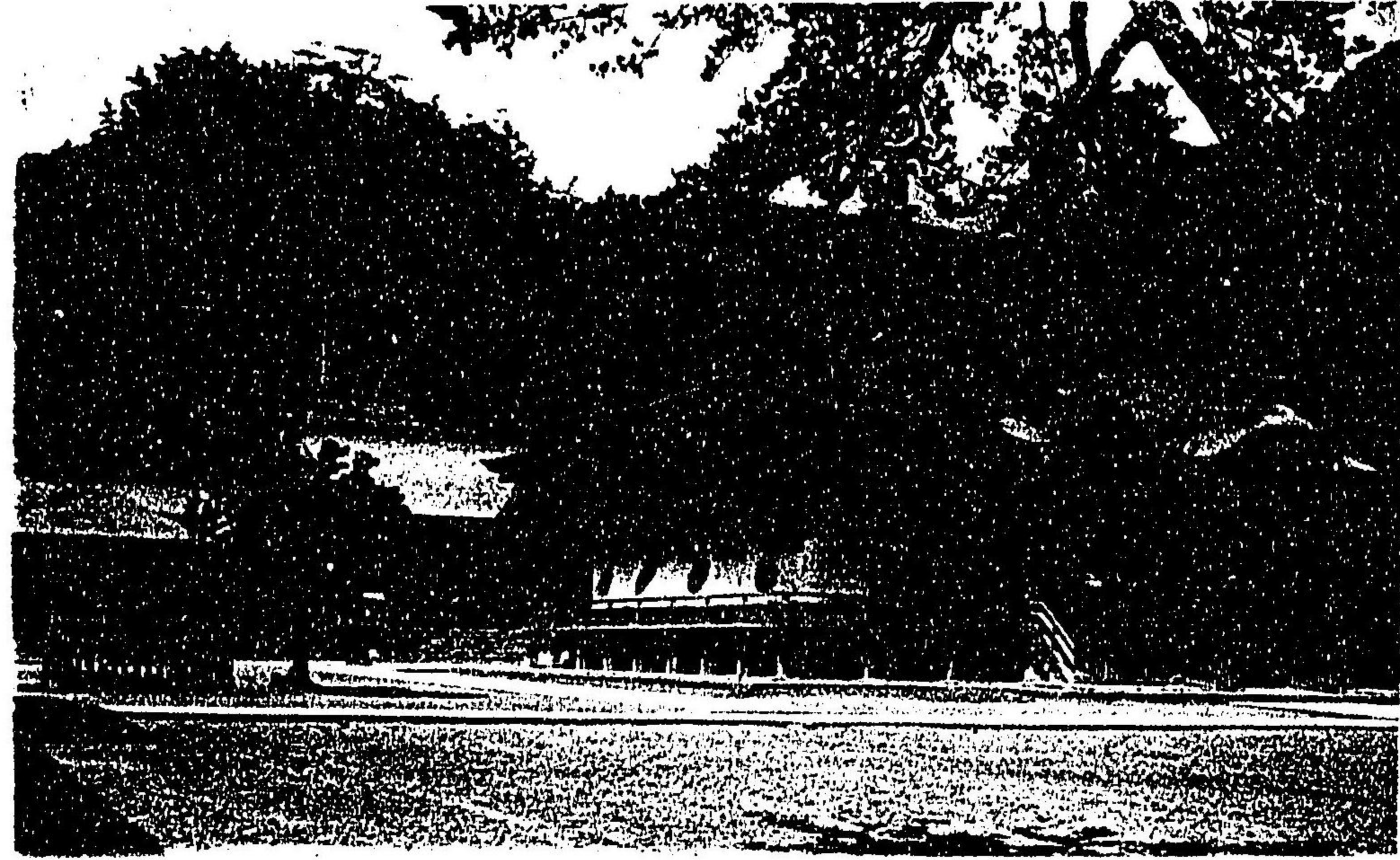
中鳥居より賽路を望む



銅 鳥 居



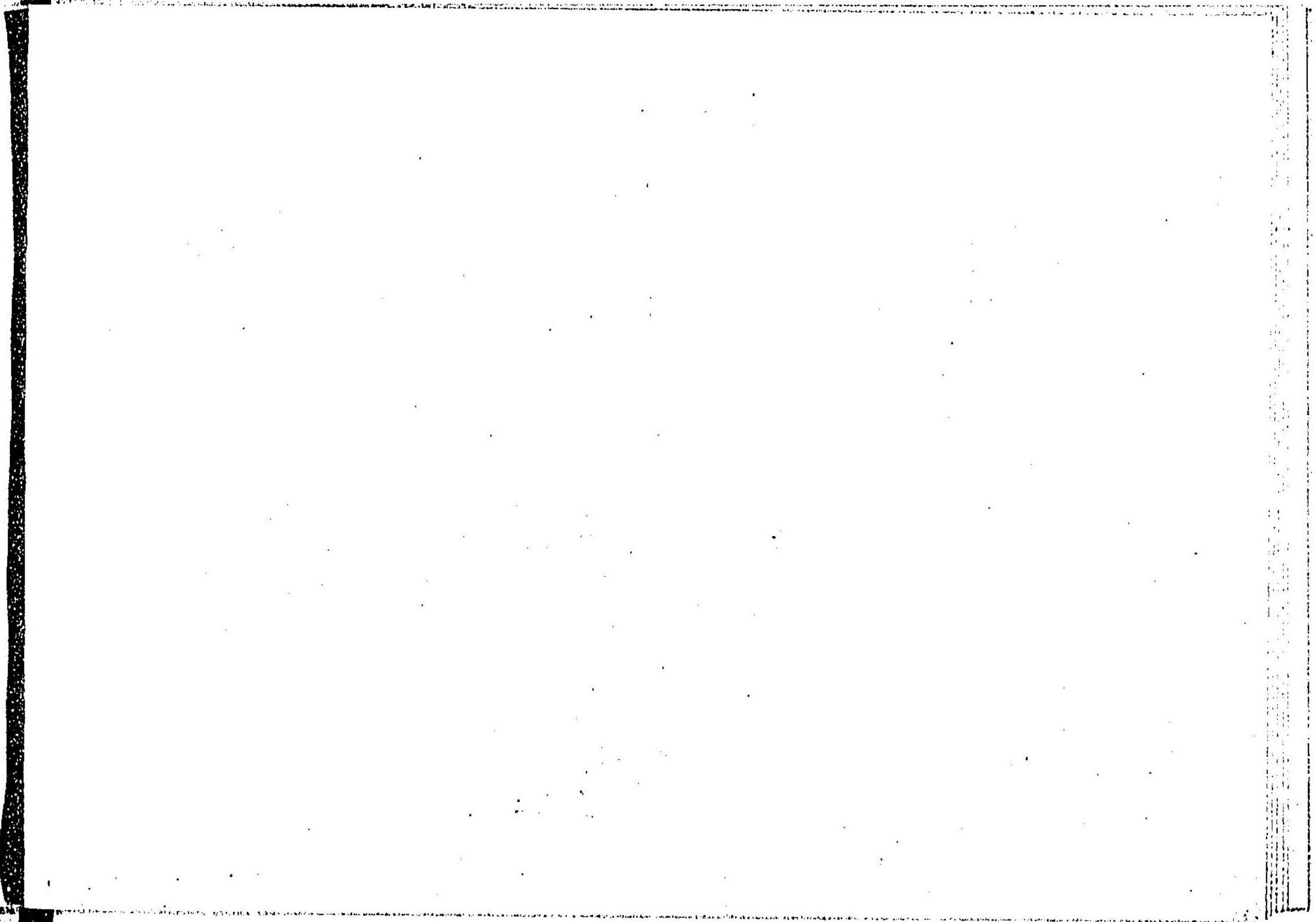
殿 拜

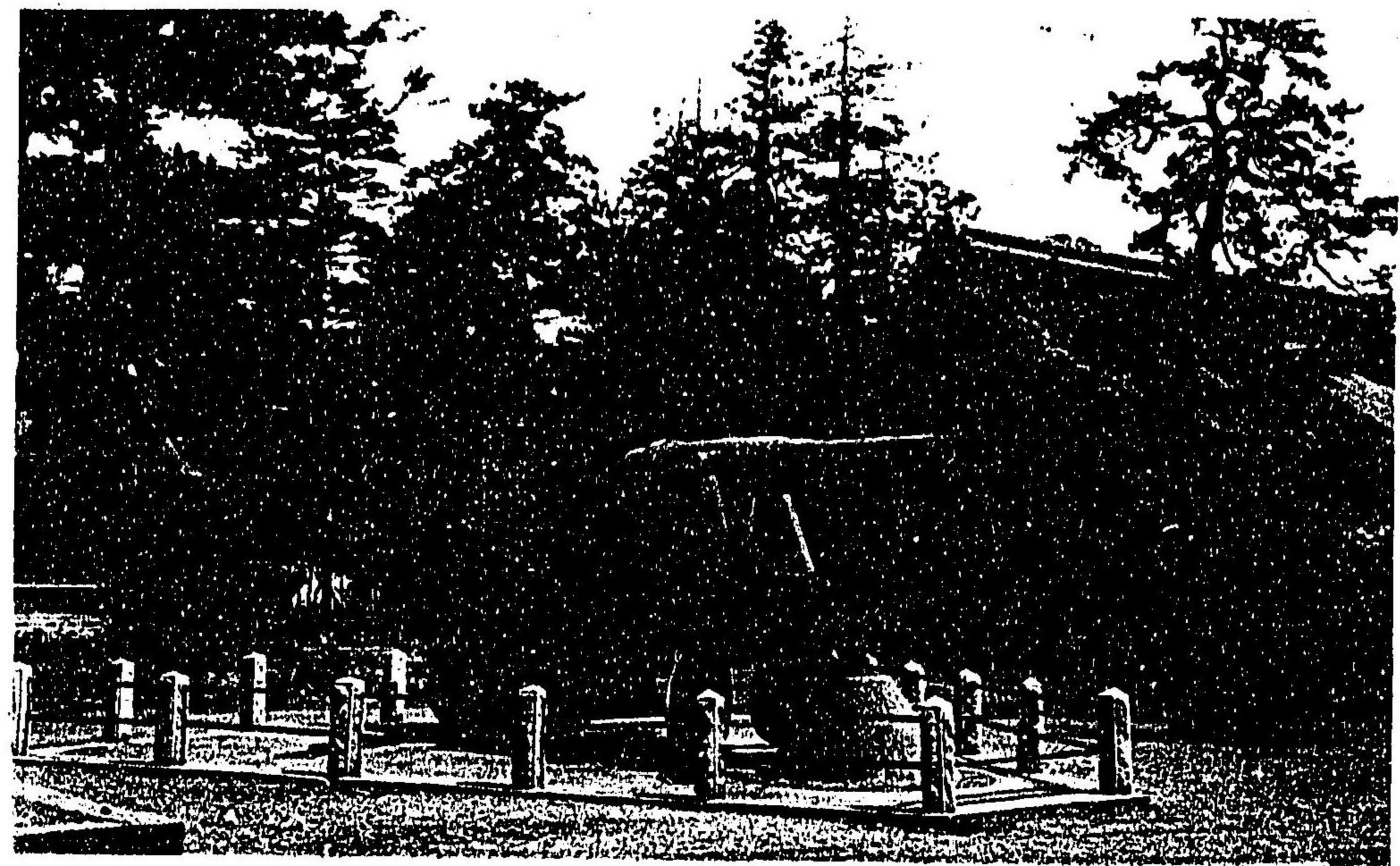


宮 本

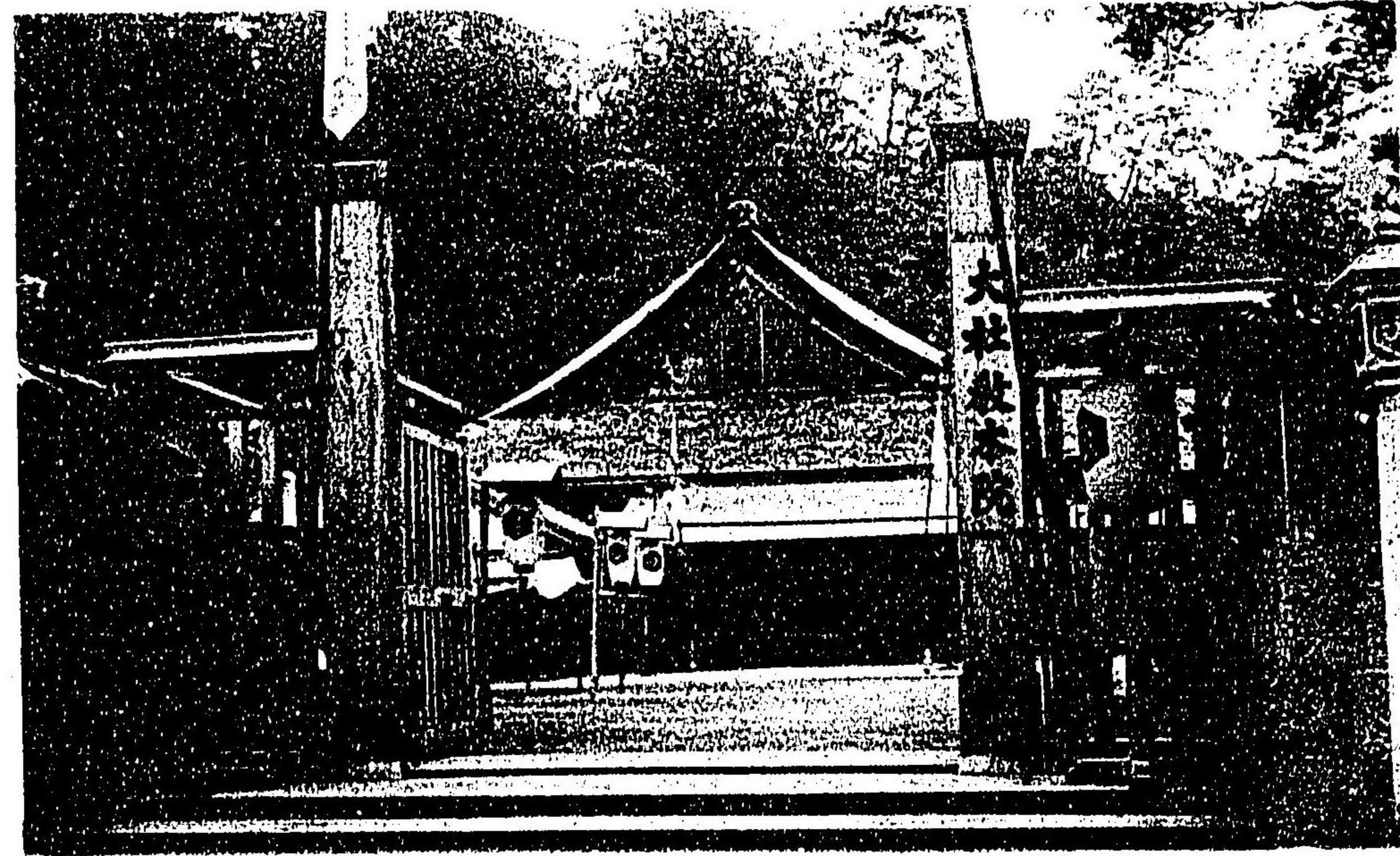


面 背





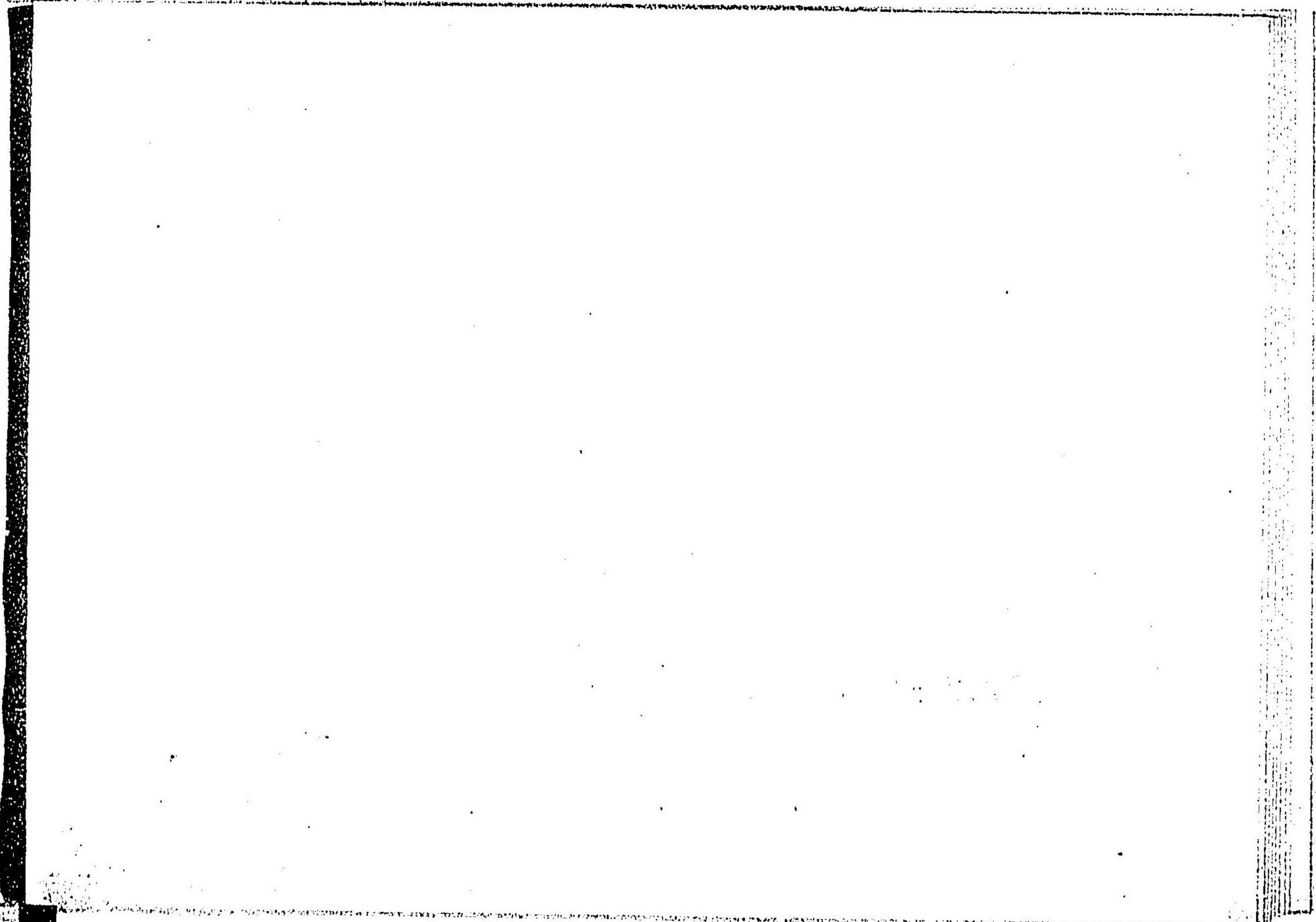
大 砲



大社教本院



島子笹



明治四十五年六月十日印刷
明治四十五年六月十日發行

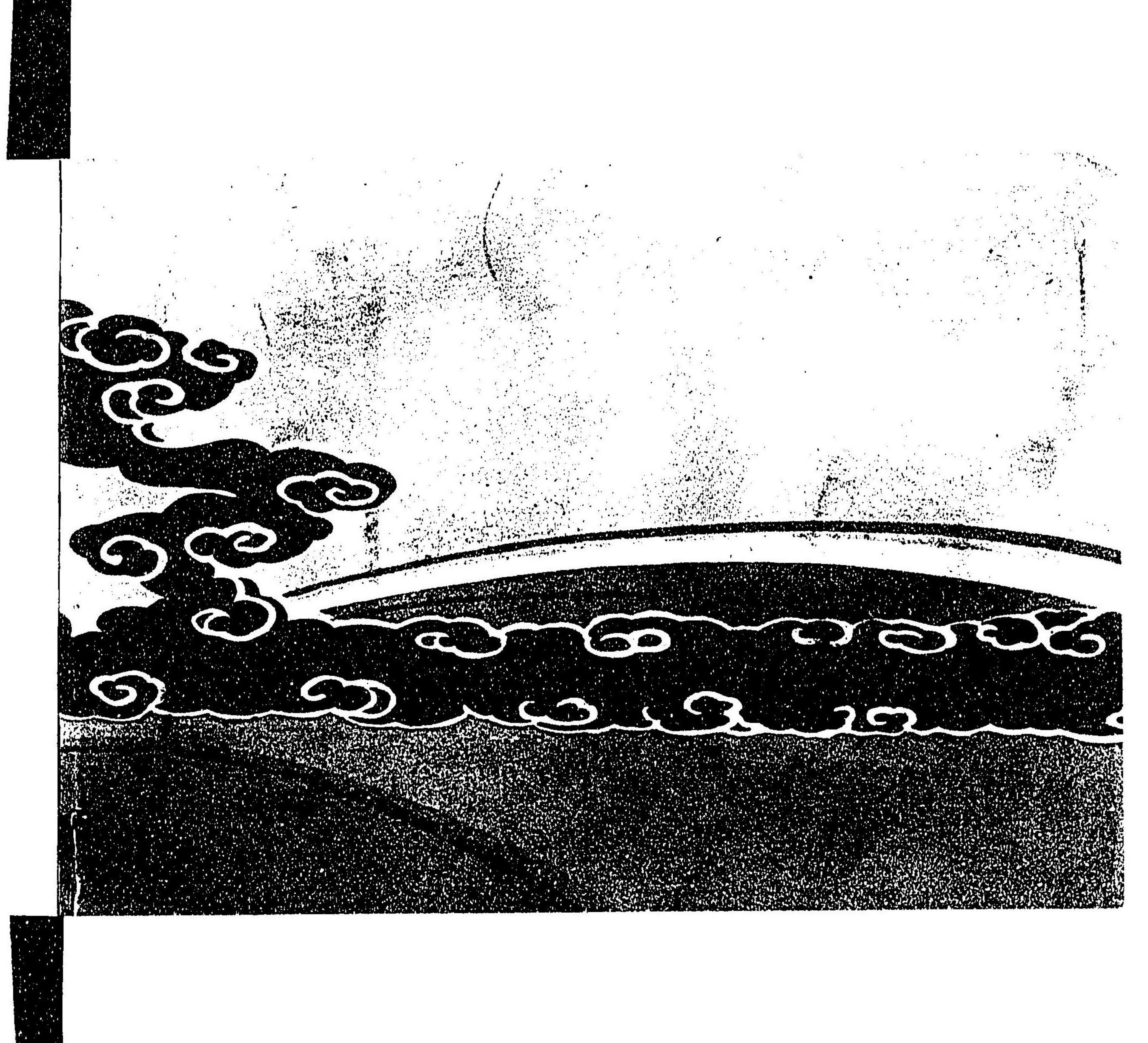
發行者兼
島根縣簸川郡杵築町
山根房太郎

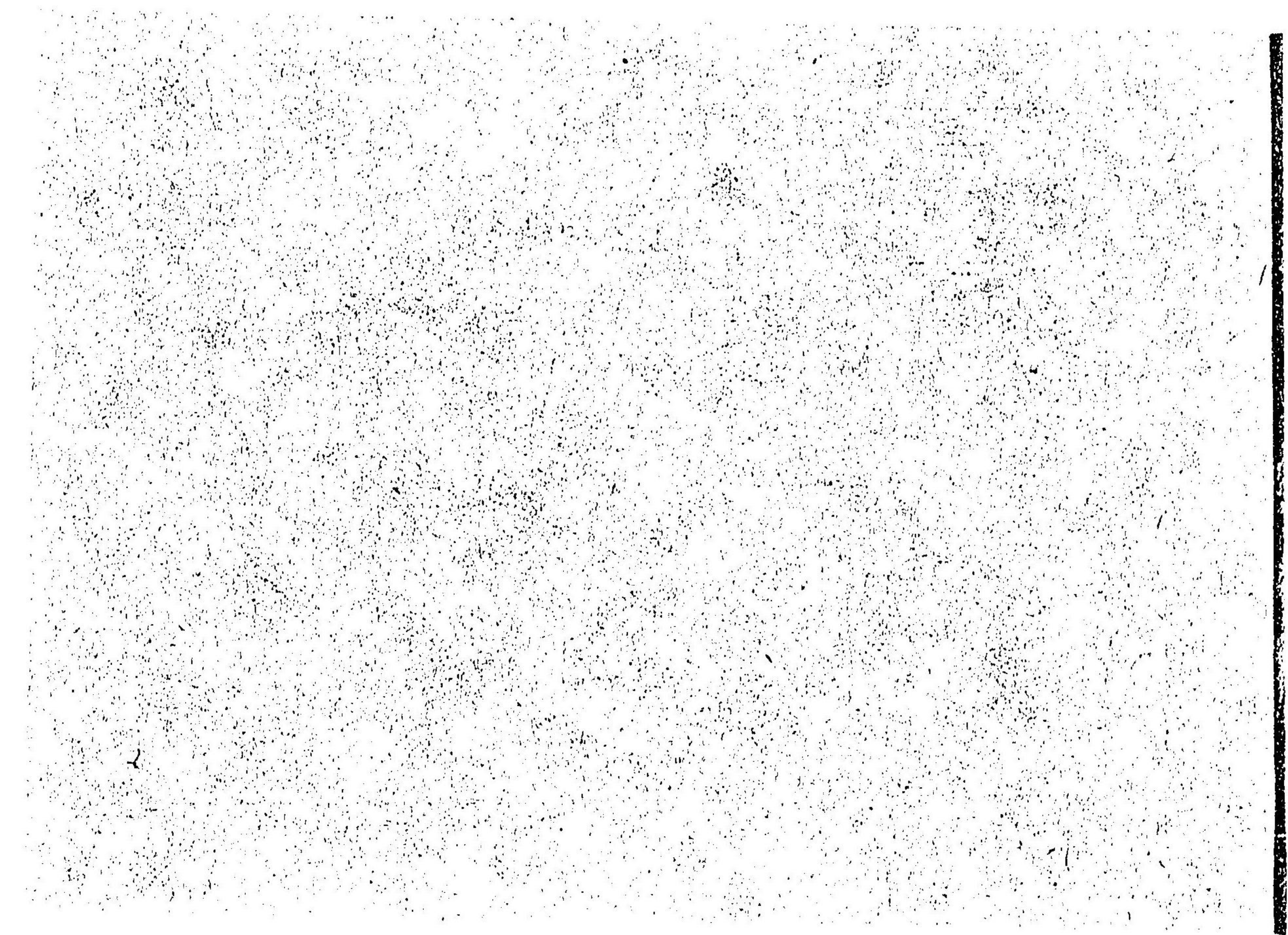
印刷者
東京神田區南乘物町十五番地
葛西虎次郎

印刷所
東京今川橋
青雲堂印刷部
電話本局二四七三番
振替口座五七一三番

發行所
出雲杵築町大社前
山根繪葉書店

269
420





12

12

111-111-111

特52

120

出雲大社写真帖

国立国会図書館

013822-000-9

特52-120

出雲大社写真帖

山根 房太郎 / 著

M45

ABB-0031



